

地理 A、地理 B

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

平成 27 年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「地理 A」の受験者数は 1,844 人（追・再試験受験者を含む。）で、昨年度に比べ 186 人の減少となり、地理歴史科の科目中最も高い減少率を示した。一方、A 科目の全受験者 5,632 人に占める「地理 A」受験者の割合は 32.7%で、「日本史 A」の 42.8%に次ぐ高い選択率であった。

本試験の「地理 A」平均点は 51.40 点で、昨年度と比較して 0.36 点下がっているが、地理歴史科 A 科目の中では「地理 A」が最も高い平均点となっている。また、A 科目の科目間においては、最高の「地理 A」と最低の「日本史 A」の平均点の差が 5.76 点であり、昨年度の差 4.06 点より小さくなっている。

なお、試験問題の具体的な検討に当たっては、例年どおり次の視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領の目標、内容等を踏まえているか。
- (2) 教科書や学習状況を踏まえた内容になっているか。
- (3) 基礎的な知識や事項の解説並びに地図や統計資料などを分析、考察して処理する能力を測定し、地理的な見方や考え方を問うことのできる内容になっているか。
- (4) 特定の分野や地域に偏ることなく、総合的な理解力を問う内容になっているか。
- (5) 問題文や選択肢の表現、難易度、形式、配点、正答率等に問題や偏りが無いように配慮されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

今年度は平成 11 年告示高等学校学習指導要領による 10 回目の試験である。全般的に同要領の目標や内容に沿って総合的な学力を問う良問が多く、難易度は昨年度並みであった。

今年度の問題は、「地理 A」の学習範囲で取り上げる内容を問うものがほとんどであった。出題内容については、全般的に地理的な見方や考え方及び地理的技能を活用させる問題を中心に出題されている。しかし、大問の主題と図表との関連性が弱い問題が散見された。

(1) 出題分野

- 第 1 問 地理の基礎的事項
- 第 2 問 国境を越えた様々な結びつき
- 第 3 問 東アジア
- 第 4 問 地球的課題と国際協力
- 第 5 問 北海道富良野市とその周辺の地域調査

(2) 内 容

第 1 問 地理の基礎的事項に関する問題。時差、大地形、環境、気候、文化、読図などの基礎的事項が幅広く問われている。テーマ図に沿わない出題が見られるなど、設問間の系統性が薄いものがあつた。地図や図表などの資料は読み取りやすく、取り組みやすい設問であった。

問 1 フライトスケジュールに基づいた計算問題。地理的技能を問う、標準的な設問である。

- 問2 地帯構造の知識とあわせて火山の分布を理解していれば解ける、基礎的な設問である。
- 問3 絶滅が危惧される動物と環境問題を組み合わせた、標準的な設問である。
- 問4 雨温図から植生を判断させる、標準的な設問である。雨緑林は「地理A」の学習では取扱いが少ない語句である。
- 問5 乾燥地域で使用されている灌漑施設の分布を問う、標準的な設問である。
- 問6 写真と説明文から音楽の発祥地を問う、標準的な設問である。
- 問7 地域ごとの宗教人口割合を問う問題。州・大陸規模の宗教分布を考えさせる良問である。
- 問8 海面上の地点から見た島の形を、地形図から読み取る、標準的な設問である。
- 第2問 国境を越えた様々な結びつきに関する問題。「地理A」では大きく取り扱われる分野である。出題意図を読み取り難い設問もあったが、大半の問題が学習範囲を踏まえた出題であり、標準的な設問が多かった。
- 問1 日本の貿易についての問題。グラフから情報を読み取り考察すれば判断できる、標準的な設問である。
- 問2 日本企業の海外進出についての問題。基礎的な知識を問う、標準的な設問である。
- 問3 4か国のインターネット普及動向についての問題。グラフ中の韓国を問うことで、難易度が高くなったと思われる。
- 問4 東京発の直行便がある都市の分布に関する、新しい傾向の問題。方位、所要時間、都市の位置など、複数の知識を活用しなければ解けない難問である。
- 問5 3か国の旅行収支と旅行者数に関する問題。国際旅行の概念が理解しにくく、難易度が高かったと思われる。
- 問6 三大洋の海底ケーブル網を扱った問題。海底ケーブルの特性を考察させる良問である。
- 問7 国家間の結びつきについて、単純な知識を問う、基礎的な設問である。
- 第3問 東アジアに関する問題。「地理A」では、近隣諸国を選択して学ぶ項目である。設問のもととなるテーマ図の情報量が過剰なため解答しづらく、難しい問題が多かったと思われる。
- 問1 大地形を扱った問題。「地理A」であまり扱われない侵食平野の知識を問う難問である。
- 問2 東アジア4地点の雨温図を扱った問題。各地点の気候の特徴を理解していれば解ける、標準的な設問である。
- 問3 東アジア4地域の農牧業の地域的特徴を問う問題。それぞれの地域の、農業に対しての詳細な知識が必要なため、難問である。
- 問4 中国の少数民族についての問題。各地域の地誌に関する知識が必要なため難問である。
- 問5 東アジア3か国の食文化に関する問題。写真と説明文から考察させる平易な設問である。
- 問6 輸出額に関する問題。経年変化を組み込むなど、出題形式の工夫が求められる。
- 問7 国土開発についての問題。詳細な知識を問うているため、「地理A」の学習内容では判断することが難しい。
- 第4問 地球的課題と国際協力に関する問題。人口・食料問題、国際協力などの幅広いテーマが出題されている。難易度のバランスはとれており、標準的な設問が多かった。
- 問1 模式的な人口ピラミッドの問題。標準的な設問である。
- 問2 栄養不足人口率、穀物自給率、人口増加率の階級区分図による出題。接する機会が多い内容のため、基礎的な設問である。
- 問3 多様な食料問題に関わる知識を問う、基本的な設問。容易に判断できる。
- 問4 合計特殊出生率と女性の労働等に関する問題。各国の特徴や各指標の特性を踏まえて考察させる良問である。

問5 日本の国際協力に関する問題。標準的な設問であるが、図表を使用するなどして地理的思考力を問うなど、出題方法の工夫が求められる。

第5問 北海道富良野市とその周辺の地域調査に関する問題。問題の構成は全問「地理B」との共通問題となっているが、「地理A」の学習内容にも十分配慮したものであった。地図や図・写真の読み取りなどを通して、地理的な見方や考え方及び地理的技能を問うとともに、地域の変容や人々の暮らし方を考察させる、基礎的な設問が多い。

問1 富良野市周辺の地勢図についての問題。読図の技能があれば解ける、平易な設問である。

問2 積雪への対応を問う問題。写真と説明文から情報を読み取れば容易に判断できる。

問3 新旧地形図を比較した問題。読図の技能を問う、基礎的な設問である。

問4 農家の分布を通して農牧業の特徴を問う基礎的問題。図を照合することで判断できる。

問5 林業に関する問題。樹種の知識があり統計値を分析することで、容易に判断できる。

問6 観光客数の年度ごとの季節変動に関する問題。グラフを読み取れば容易に判断できる。

3 分量・程度

(1) 問題の程度

本試験において、平均点が51.40点となり、難易度はほぼ平年並みであったが、一部に難問も見られた。単純な知識を問う設問は少なく、図表や資料から、知識の活用や地理的な思考力、地理的技能を問う設問が多かった。しかし、地理歴史科全体で、最高点が100点ではない科目は「地理A」のみである。最高点及び平均点が上がらない要因として、以下の2点が考えられる。

- ① 「地理A」の学習では、取り上げられることが少ない事項や国・地域がみられた。
- ② 図表から解答を導くために高度な知識や技能を求められる問題があった。
- ③ 選択して取り扱うとされている項目について、細かな知識を問う問題があった。

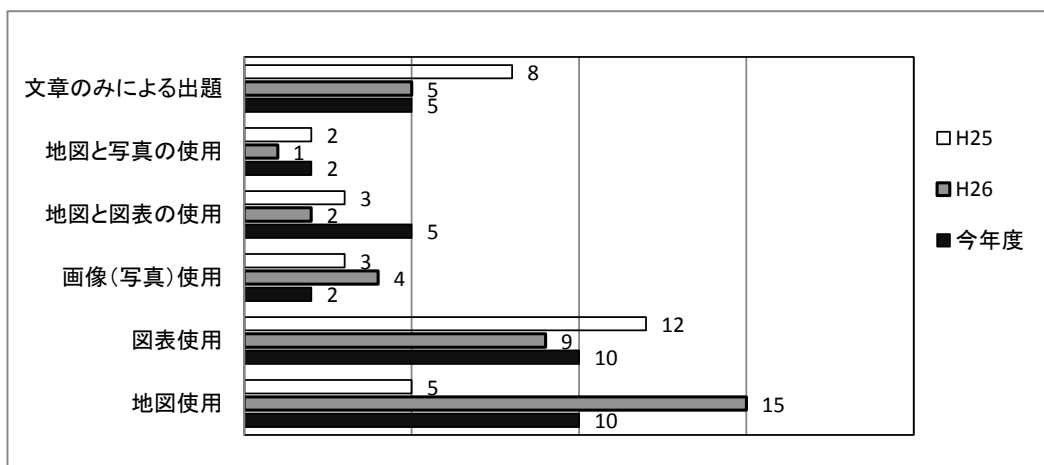
(2) 解答数

大問数は5問、設問数は33問、解答数は34問であり、試験時間内で解答できる内容であった。

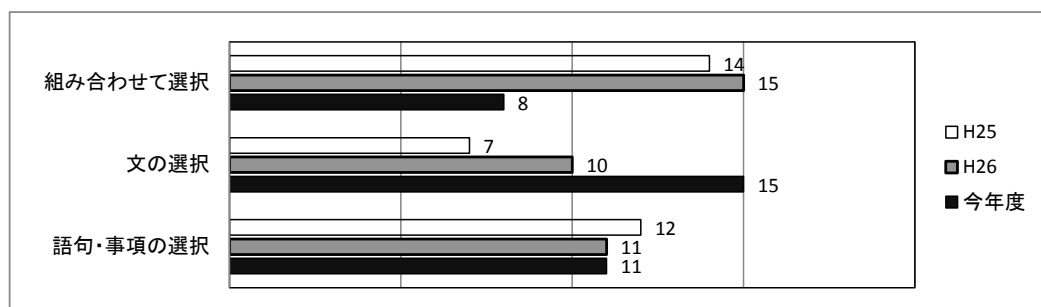
4 表現・形式

(1) 形式・配点

小問の出題形式と解答方法は、下のグラフのとおりである。



グラフ1 出題形式



グラフ 2 解答方法

出題形式について、地図使用の問題は昨年度より減少しているが、地図と図表及び地図と写真といった地図を含めた問題の総数に大きな変化はない。

なお、大問の形式については、地図を用いてテーマを示したもの（第1問・第3問）、地図と図表を中心としたもの（第2問・第4問）、地域調査において地勢図を用いてテーマを示したもの（第5問）とバランス良く構成されている。

配点については、1問2解答（各2点配点）の4点が1題、その他は全て3点であった。基礎的な学力を測るセンター試験の趣旨を踏まえた出題といえる。

(2) 表 現

図表には、多様な表現が用いられており、工夫されている。また、問題の配置については空白ページ（下書き用紙）を入れるなど、解きやすさへの配慮がある。

問題冊子については全ページが白黒印刷であるが、図表の中にはカラー印刷が望ましいものがあった。教科書等教材はカラー印刷のものが増加しており、図版の読み取りにおいても、得られる情報量に圧倒的な差がある。冊子のサイズについては、面積の制約から図版が小さく読解が難しくなっているものもあり、A4判の問題冊子が望ましいと考えられる。

5 要 約

「地理A」は受験者が少ない上に、幅広い層の生徒が受験するため、難易度の調整についてはかなり難しいと考えられるが、今後とも適当な難易度の問題と、基礎的な出題内容、範囲、形式の作問をお願いしたい。

今年度の本試験では、昨年度見られたような不鮮明な写真・図版等がほぼなくなり、改善を評価したい。一方、一部の問題で、図表の読み取りが難しいことにより、解答に時間を費やしてしまった受験者があったものと思われる。地理的概念の理解や、地理的な見方・考え方についての力を問うことができるよう、出題の一層の工夫をお願いしたい。

今後のさらなる改善に向けて、次の点を踏まえた作問を求めたい。

- (1) 「地理A」では作業的、体験的な学習を重視し地理的技能を高めることが学習のねらいの一つである。「地理A」の履修者にとって、学習の範囲を超えるような細かな知識や概念を問う設問は避け、「地理A」のねらいや学習状況を踏まえた問題作成をお願いしたい。
- (2) 単調な出題形式や単純な図表の読み取りにならないような工夫や、図表との関連性が薄く文章だけで解答できる設問にならないような工夫などをお願いしたい。特に、事項や事例を選択して扱う内容に関しては、学習していない生徒でも、他の地域や地理的事象から推察して解答できるよう、問い方の工夫をお願いしたい。また、「地理A」で身に付けた学力の高い生徒が高得点を得られるような工夫をお願いしたい。

- (3) 「地理A」・「地理B」の共通問題は、今年度は大問一つ（第5問）で出題された。昨年度と同様「地理A」の受験者に対しても配慮がなされており、来年度以降も共通問題とした場合においても、大問及び小問について「地理A」にも配慮した内容や問い方にしてほしい。

センター試験が高校現場に与える影響は大きく、センター試験が知識偏重から思考力、判断力を求める出題を増やしたことで、高校の授業にも変化がみられる。今後とも継続して質の高い出題をお願いしたい。最後に、今年度作問に当たられた諸先生方の御努力に敬意を表したい。

地 理 B

1 前 文

平成27年度の大学入試センター試験「地理B」の受験者数は146,922人（追・再試験を含む。）で、昨年度より389人増え、ここ数年増加を続けている。「世界史B」は本年度も1,885人減り、三年続けて減少した。昨年度6,351人減少した「日本史B」は2,053人増加した。

本年度の「地理B」の平均点は58.59点となり、昨年度と比べて11.09点下がった。この結果、「地理B」は、「世界史B」（65.64点）、「日本史B」（62.01点）をそれぞれ7.05点、3.42点下回った。昨年度の平均点は「地理B」（69.68点）、「世界史B」（68.38点）、「日本史B」（66.32点）であり、本年度のB科目間の差はやや拡大した。今後も公民科の各科目を含めて、平均点の差異による受験者間の有利不利が生じないように十分な配慮をお願いしたい。

試験問題の評価については、これまでと同様、次の7視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領に準拠し、教科書や学習活動の実態を踏まえた内容になっているか。
- (2) 地図や図表・統計資料等を分析・考察し、処理する能力を測定する内容になっているか。
- (3) 特定の分野に偏らず、総合的に「地理的な見方や考え方」を問う内容になっているか。
- (4) 問題の分量や程度などに配慮しているか。
- (5) 問題文の表現や形式、配点などに配慮しているか。
- (6) 問題の難易度や得点のちらばりなどが適正となるように配慮されているか。
- (7) 過去の問題に対する意見・評価などを考慮して出題されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

問題の内容は、全般的に高等学校学習指導要領の目標と内容に沿った出題であった。出題分野は、例年とほぼ同様に、自然環境、資源と産業、都市と村落・生活文化、地誌、現代世界の諸地域及び地域調査の六分野であった。いずれも基本的な知識や理解を問う内容を中心に、図表や地図、画像（写真）、統計資料の読み取りなど「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」を問う内容が適切に配置されていた。また、本年度も知識のみならず、地理情報の分析や思考力・判断力を求める工夫した良問が多く見られた。大問数は6題、小問数は35題、「地理A」との共通問題は「地域調査」のみの小問6題で、昨年度と同じ構成であった。

(1) 出 題 分 野

- 第1問 世界の自然環境と自然災害
- 第2問 世界の農業
- 第3問 都市と村落
- 第4問 南アメリカの地誌
- 第5問 現代世界の諸課題
- 第6問 北海道富良野市周辺の地域調査

過去6年の出題分野

出題分野	平成22年度	平成23年度	平成24年度
自然環境	世界と日本の自然環境	自然環境の地域性	世界の自然環境と自然災害
資源、産業	世界の資源・エネルギーと産業	世界の資源と産業	世界の農牧業
都市・村落、生活文化	都市と村落、生活文化	生活文化と都市	都市と村落、生活文化
地域調査	山形県と最上地域（東北）	佐賀県内の諸地域（九州）	静岡県大井川流域（東海）
世界地誌	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ
現代世界の諸課題	現代世界の諸課題	現代世界の諸課題	現代世界の諸課題
出題分野	平成25年度	平成26年度	平成27年度
自然環境	世界の自然環境	世界の自然環境	世界の自然環境と自然災害
資源、産業	産業構造の変化と産業の立地	世界の資源と産業	世界の農業
都市・村落、生活文化	都市と村落、生活文化	都市と生活文化	都市と村落
地域調査	徳島県鳴門市と周辺（四国）	愛知県知多半島周辺（東海）	北海道富良野市と周辺（北海道）
世界地誌	地中海地域	西アジアとその周辺地域	南アメリカ
現代世界の諸課題	現代世界の人口と民族の諸問題	現代世界の諸課題	現代世界の諸課題

(2) 内 容

第1問 世界の自然環境と自然災害に関する大問である。地理的思考方とともに細かな地理的知識や思考力を必要とする問題があり、やや難易度が高いと感じた受験者がいたと思われる。

問1 大地形の分布に関する組合せ問題である。基本的な知識があれば解答できる。

問2 2つの経線に沿った地点の1月と7月の月降水量を選ぶ選択問題である。それぞれの経線上の気候をしっかりと理解していないと判断できず、思考力や技能を問う良い問題である。

問3 地図中の4地点の最暖月・最寒月平均気温に関する選択問題である。地図より緯度や隔海度からの判別は可能だが、寒流の分布に気付かなかった受験者は戸惑ったと思われる。

問4 地図中の4地点の成帯土壌に関する正誤問題で、標準的な問題である。

問5 2地点の侵食作用に関する画像を用いた問題で、基本的な理解があれば解答できる。

問6 火山噴火、地震・津波、熱帯低気圧による災害の発生数を示した三つの統計地図に関する組合せ問題である。これらの災害に関する知識があれば解答できるが、統計地図の読み取りに戸惑った受験者もいたと考えられる。

第2問 世界の農業に関する大問である。単位人口・単位面積当たりの生産額を扱うなど多面的に考察させる問題も見られたが、小麦生産量の推移、プランテーション作物の生産国、アメリカ合衆国の農牧業分布などバランス良く出題され、全般的に取り組むやすい問題である。

問1 イタリア、インド、カナダ、フランスの小麦生産量の推移とその背景について述べた文に関する正誤問題である。各国の農業についての基本的な知識があれば解答できる。

問2 三つの作物の生産上位5か国を示した表の組合せ問題である。平易な問題である。

問3 アメリカ合衆国など4か国の農地1ha当たりの農業生産額と農業人口一人当たりの農業生産額を示した図に関する選択問題である。あまり見ることのない指標が扱われており、各国の農地面積、農業生産額、農業人口に関する知識が要求されるやや難しい問題であった。

問4 アメリカ合衆国の農業地域について、三つのルートに沿った特徴を示した文に関する組合せ問題である。各文の記述を地図に沿って丁寧に確認していけば容易に解答できる。

問5 4か国の農産物貿易の輸出入額を示した図に関する選択問題で、平易な問題である。

問6 農産物流通と農業政策に関わる特徴や課題について述べた文に関する正誤問題である。基礎的な内容であり、かつ時事的な内容を含み、取り組みやすかったと思われる。

第3問 都市と村落に関する大問である。都市の立地、人口1位都市、街路形態、都市の発展過程、日本の農山村地域の変化等の内容を扱っている。文章のみの設問が目立った大問である。

問1 カイロ、ハンプルク、ベネチア、ベルゲンの立地とその特徴について説明した文に関する選択問題である。各都市についての知識が十分でない受験者は戸惑ったと思われる。

問2 首都が人口最大の都市ではない国を選ぶ選択問題である。プライメートシティの例として取り上げる2都市以外の判別は容易ではなく、深い知識が要求される難問である。

問3 3都市の街路形態に関する組合せ問題である。見慣れない図が使用されたことと袋小路及び囲郭部分の判別に細かな知識が必要とされ、かなり難しい問題となっている。

問4 四つの都市の高層建築物に関する選択問題である。四つの都市についての基本的な知識があれば解答できる。加えて、世界史など他科目との関連がみられる設問である。

問5 日本の農山村地域の変化に関する正誤問題である。1990年以降の農山村地域の特徴についての知識及び時事的地理情報の活用によって容易に解答できる。

問6 四つの地方の人口移動について、3大都市圏とそれ以外への転出人口を示した図に関する選択問題である。四つの地方と転出先との関係を空間的に考察させる良問である。

第4問 南アメリカに関する大問である。自然環境、農業、鉱工業、都市、貿易、民族などについて、地域の特徴を総合的、多面的に問う出題であった。一部教科書で扱われない指標や基本的知識から類推させる地理的思考が必要とされ、難しいと感じた受験者が多かったであろう。

問1 南アメリカ西部の景観の変化を示した写真に関する組合せ問題である。砂漠の分布については容易に判別できる。しかし、熱帯林と草原の分布については、示された写真と地図から正確に判断できずに戸惑った受験者もいたであろう。

問2 地図中の4地域の地形を述べた文に関する正誤問題であり、基本的な問題である。

問3 4地域の農牧業に関する選択問題である。文中のリヤマやエスタンシアについては判断しやすいが、コロンビアとブラジルの判断で戸惑った受験者がいたと思われる。

問4 ブラジルの3都市について述べた文に関する組合せ問題で、100万人以上の都市についての知識をはじめ、細かな知識が必要とされ、多くの受験者が難問と感じたであろう。

問5 南アメリカ諸国のアメリカ合衆国などへの輸出額割合を示した図に関する選択問題である。統計地図を読み取る技能とMERCOSUR加盟国の知識があれば解答できる。

問6 南アメリカの民族構成について述べた文章に関する選択問題である。民族に関する深い知識を測る問題である。

第5問 現代世界における諸課題に関する大問である。医療水準や肥満の人の割合、アフリカの人口増加、都市問題、二酸化硫黄の排出量についての問題であり、全般的に標準的であった。

問1 アメリカ合衆国など4か国の肥満の人の割合など三つの指標を示した表に関する選択問題である。教科書にあまりない指標を扱った問題で、多くの受験者が戸惑ったであろう。

問2 アフリカの3地域の50年間の人口増加指数を示した図に関する組合せ問題である。アフリカの出生率、死亡率についての正確な知識があれば解答できる。

問3 世界の大都市の社会経済状況を述べた文に関する正誤問題で、基本的な問題である。

問4 アフリカなど3地域の土壌劣化の原因別面積率に関する組合せ問題である。アフリカ、北・中央アメリカ、南アメリカの土壌劣化の人為的要因を推察することで解答できる。

問5 アメリカ合衆国など4か国の二酸化硫黄排出量の推移を示した図に関する選択問題である。4か国の工業化の変遷や環境問題への取組みなどに関する知識があれば解答できる。

第6問 北海道富良野市と周辺地域における地域調査に関する大問である。この出題分野は「地理A」との共通問題である。景観説明、地形図や写真、新旧地形図の比較、主題図など多様な

- 資料を多角的に分析し、地域の特性を考察する能力が問われた。取り組みやすい問題である。
- 問1 車窓から見える景観に関する選択問題である。地理的技能があれば容易に解答できる。
- 問2 積雪に対応するものを示した写真に関する選択問題で、一般的な知識で解答できる。
- 問3 新旧の5万分の1地形図を比較し、そこから読み取ることができる変化について述べた文に関する正誤問題である。基本的な読図の技能があれば容易に解答できる。
- 問4 農家戸数を示した主題図についての問題であり、地理的知識や技能で解答できる。
- 問5 現地調査で実施する聞き取りや統計の分析に関する組合せ問題である。林業成立の自然条件と統計資料を正確に分析する基本的な技能があれば、容易に解答できる。
- 問6 10年毎の富良野市の月別観光客数の変化を示した図について、その傾向と背景を説明した文に関する正誤問題である。図や表を丁寧に読み取っていけば、容易に解答できる。

3 要 約

(1) 問題の程度

本年度も基本的な問題から地理的知識を基にした考察力や思考力を必要とする問題まで、幅広く出題されている。画像（写真）、地形図、図表等の資料を分析し考察する能力を問う問題、歴史的背景を踏まえ地域性を考察する問題、時事的な知識を基に資料を読み取る問題、また他科目の分野と関わる問題が見られ、現代世界の地理的認識を総合的に問う内容であった。本年度は、画像や図表の読み取りにおいて、教科書の内容を超える細かい知識や深い理解を必要とする設問が増加し、昨年度より全体的に難易度の高い問題構成となっている。

今後の高等学校の授業では、基本的な地理的知識を基にして、より高度な「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」を身に付けさせるとともに、他科目の内容や時事問題等を関連付けた多面的・多角的な地域の理解をさせるため、より一層の取組を行う必要がある。

(2) 設問数・配点・形式等

設問数は大問6題、小問35題で構成されており、全解答数は昨年度と同じ36題であった。配点は、第1問、第5問で3点が四つと2点が二つの16点満点、第2問、第3問、第4問、第6問は3点が五つと2点の一つの17点満点であった。設問形式と出題形式は、右表のとおりである。出題形式としては地図、図表、画像（写真）を用いた問題が36題中29題出題された。

設問形式による分類	H27	H26
文章の正誤	10	11
選択	15	8
組合せ	11	17

(3) おわりに

「地理B」の問題は、例年「地理的な見方や考え方」を問うために適した統計の選択や図表等の作成がよく吟味されており、本年度の問題についても問題評価の7視点からみて、多くの項目において目標を達成し得たものと判断できる。しかし、他の地理歴史科・公民科の科目に比べて高得点を取りにくく、高得点者層の割合を比較しても「地理B」は少ない。標準偏差についても科目の特性かもしれないが、毎年他の科目より小さい。前文で述べたように、「地理B」受験者数は増加傾向にあり、難易度及び標準偏差等を考慮した問題内容となるよう、今後一層の配慮をお願いしたい。「地理B」は「現代世界の地理的認識」、「地理的な見方や考え方」、「地理的技

出題形式による分類		H27	H26
文章のみ		7	6
地理的技能	地図使用	9	6
	図表使用	10	12
	画像使用	1	2
	地図と図表	7	9
	地図と画像	2	1
	図表と画像	0	0
地図と図表と画像		0	0

※ 衛星画像を地図（地勢図）と判断した。
また、画像には鳥瞰図・写真を含む。

能」の習得を目指しており、センター試験はこれらについての力を問う問題でなければならない。よって、これまでと同様に様々な観点や工夫を取り入れた考察力・分析力を問う作問により、今後も受験者たちの努力が報われる適切な出題をお願いしたい。